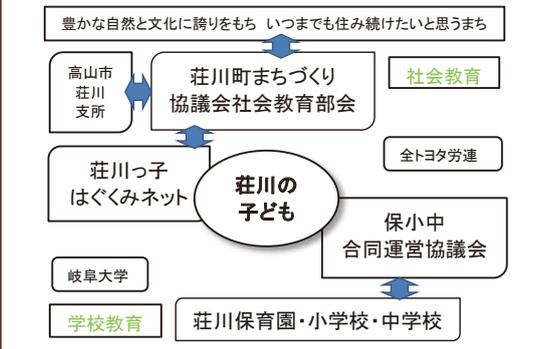


岐阜県高山市	● 活動名	● 関係する学校名
	地域に根ざした保小中一貫教育推進事業	高山市立荘川中学校、高山市立荘川小学校

開始年度	平成 25 年度	学級数	7 学級	児童・生徒数	55 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 13 人	連携団体・企業等	・荘川町まちづくり協議会 ・高山市荘川支所 ・岐阜大学
ボランティアの数	登録人数 10 人	属性	・地域住民		
参考 URL	http://www.shokawa.net/				

● 体制図



● 連絡先 荘川町まちづくり協議会事務局 ☎ 05769-8-6005

● 活動の概要・経緯
 荘川町には、豊かな自然・伝承文化があり、温かな人々が暮らしている。この素晴らしい荘川のまちを守り支えているのは、地域の方々の結の心にある。その中で、豊かな地域の子育てコミュニティのもと、保育園・小学校・中学校の子育て・教育環境が営まれている。平成 25 年度には、「保護者・地域の方々が願いを共有し、12 年間をつなぎ、健やかに育む」ことを目的とし荘川っ子はぐくみネットが立ち上がった。また、今年度、保小中それぞれにあった組織を 1 つにまとめ、合同運営協議会として整備した。地域に存在する 1 園 1 小 1 中の保育・教育のつながりを大切にし、地域の皆さんで地域とともにある学園を創造し活動している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 荘川町まちづくり協議会の社会教育部会が中心となり荘川町の子ども会と連携し、保小中合同のキャンプを開催。子供たちは地域ボランティアの方々とふれあい、川遊び、鮎のとも釣り、カレー作り、キャンプファイヤーなどの体験活動を楽しんだ。
- ・ 荘川支所と岐阜大学が連携し、小中学校の郷土教育の一環としてユネスコエコパークについての学習やミズバショウ保全活動を位置付け推進している。ユネスコスクールへの登録も申請中であり、今後 ICT 機器を活用した学習も充実させたい。
- ・ 保小中の兼務職員を中心とし、保小中一貫教育の充実をめざし実践を重ねている。中一ギャップの解消はもちろんのこと、保小中合同の運営協議会を充実していくことで、地域とともにある学校づくりに力を注いでいる。

【実施にあたっての工夫】

- ・ 校種間連携：保育園長と小中学校長が頻繁に行き来し、「子どもたちの 12 年間の成長」という視点から対話することを大切にしている。それぞれの立場で考えていることを大切につなぎ合わせ実践に移している。
- ・ 学社連携：学校とまちづくり協議会（社会教育部会）と荘川支所（行政）との連携を大切にしている。荘川の子供たちを育む上で、学校教育と社会教育の両面から役割分担をし連携する体制が協働活動を生み出すためには効果的である。
- ・ 郷土教育：高山市教育の方針である郷土教育を、学校と地域をつなぐ大切な窓口としている。郷土教育をツールとし、社会に開かれた教育課程の推進を積極的に行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 保小中一貫教育推進事業を継続してきたことで、12 年間をつなぐ子育て・教育の理解が深まり、保護者・地域の方々の関心が高まっている。
- ・ 学校、保護者、地域の方々、行政が協働し、「全員が子育てのスタッフである」という意識のもと、地域の特色を生かした子育て・教育環境が整いつつある。
- ・ 高山市教育の方針である郷土教育が潤滑油となり、地域と学校の協働活動が進められている。

● その他

総合的な学習の時間に地域の文化歴史、郷土芸能の講師として地域の方に来ていただいて学んでいる。地域芸能祭での発表や地域イベントでの笠踊りを披露している。



ミズバショウの保全活動



デイキャンプ・鮎の塩焼き

ポイント

まちづくり協議会の社会教育部が中心となって、多様な組織・機関をつなぎ、多彩な活動を展開していくことで、地域の意識形成を図っている点が参考になりますね。